事例No.	2811
公表年度	R5
団体の属性	その他
団体名	一般社団法人 東彼杵ひとこともの公社

事例区分	地域活性化

タグ	・関係人口 ・地域運営組織 ・移住定住

事例種類	地域活性化

事例内容・タイトル

“Let’s 夢見る町へ„ ひとこともの価値を高める

出典

令和５年度ふるさとづくり大賞事例集

ふるさとづくり大賞　団体表彰



〝Let's 夢見る町へ〟ひとこととものの価値を高める

一般社団法人 東彼杵（ひがしそのぎ）ひとこともの公社

DATA

事　例　名：一般社団法人 東彼杵ひとこともの公社
所　在　地：長崎県東彼杵郡東彼杵町瀬戸郷1303番地1
連　絡　先：TEL 0957-46-1064
　　FAX 0957-46-1064
　　E-mail sorrisoriso1216@gmail.com
ホームページ：http://kujiranohige.com

取り組みの概要

東彼杵ひとこともの公社は、人口の流出が止まらない東彼杵町において、UIターン者らの有志で町の遊休施設であった米倉庫をリノベーションし、交流拠点施設「Sorriso riso千綿第三米倉庫」を創設したのが始まり。公社設立後も、地域商社事業、地域プロモーション事業、事業支援／コンサルティング事業を通して、町に関わるひとこととものの魅力を伝え、関係人口の自然派生的な広がりを生み出している。

評価された点

●空き家のリノベーションと新たな事業誘致へのサポートを通じて、町に多様な担い手を呼び込み、魅力ある地域を創出している点を評価。
●ハードルが高くなく、手が届きそうなレベルの事例である。属人的な能力によるところも多いかもしれないが、これらを含めて学びとり、他の地域にも展開してもらいたい。
●公社設立後は、地域にある価値を再生しプロモーションを通じたブランディング、起業支援へと動いており、興味深い事例である。
●セレクトショップやカフェ家賃などの運営をしており、開業支援やコンサルティング・ブランディング業務など幅広く展開している点を評価。

取り組みのプロセス

取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題
その取り組みを実施するに至った要因・背景や地域課題について記載。

行政や外部からの支援
行政や外部からの支援などについて記載。

きっかけ　2008年
・東彼杵町にUターン。

・若者の人口流出が進み、かつての賑わいを失っていた。

・どれも一過性の賑わいに留まることへ疑問を抱き、拠点の必要性を実感。

・旧農協千綿村米倉庫の取り壊しを知り、農協へ活用交渉。

・町や県の後押し、農協承諾。

2013年～

「ナガサキプロジェクト」発足

・有志を募り、各種イベントを開催。



2015年12月～

交流拠点「ソリッソリッソ千綿第三瀬戸米倉庫」での活動開始

・カフェ、雑貨屋、共有スペースが併設。
・「パッチワークプロジェクト」等による開業支援。





2017年4月

「一般社団法人 東彼杵ひとこともの公社」設立

・「携わるすべてのひと・こと・ものが豊かになるように、東彼杵町の魅力を『くじらの髭』でろ過し、伝える」をコンセプトに、一連の事業を継承。

2020年～

ポータルショップ、セレクトショップ「くじらの髭」開始





・九州電力と協業開始。

2022年～

「Qでんにぎわい創業プロジェクト」の協業先1号となり九州電力と協業開始

・くじらをモチーフとした特産品「くじら最中」の開発、移動販売車「CHANOKO」による「くじら焼」の販売。
・第2の交流拠点「uminoわ」。





今後の展望
・「〝Let's 夢見る町へ〟」を目指し、応援したい人と挑戦したい人をつなぐシステムを模索中。

受賞者のコメント

この度は、貴重な賞を賜り誠に感謝いたします。この賞を糧に今後も、東彼杵町ももちろんのこと、長崎県全体としても、大村湾を囲む市町村で連携し、町や県で地域事業を起業する方や法人化を考える方、新規就農者などの人材育成を目的とした活動を継続していきたいと思っています。また、地方で暮らす価値を改めて見つめ直す機会とし、コンセプトである〝Let's 夢見る町へ〟をテーマに「ひと・こと・もの」の価値を高めていきたいと思っています。